

# 会 議 録

会議の名称	那珂川町子育て支援推進協議会		
開催日時	平成 28 年 7 月 12 日(火) 10:00 ~ 11:50	開催場所	勤労青少年ホーム 2 階 第 1・2 会議室
出席者	<p>1. 委員 秋峯委員、飯田委員、平島委員、緒方委員、大谷委員、臂委員、萬委員 (欠席者)江島委員、足立委員、椛島委員</p> <p>2. 町(事務局) 八尋副町長、中村子育て支援課長、春崎子育て支援課長補佐兼子育て支援担当係長、(子育て支援担当職員)渡邊</p>		
配布資料	<p>資料 1-1: 那珂川町子育て支援推進協議会委員名簿、1-2: 那珂川町子育て支援推進協議会の概要、 1-3: 那珂川町子育て支援推進協議会設置条例、1-4: 進捗状況について、1-5①: 「出張ひろば みなみはた広場」について、1-5②: 広報なかがわ 8 月号(抜粋)、1-6: 那珂川町学童保育所 入所児童数一覧、1-7: 那珂川町認可保育所及び認定こども園の入所状況と申込み状況、その他資料: 那珂川町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略(概要版)</p>		
<p><b>議題及び審議の内容</b></p> <p>1. 委嘱状交付 (委員交替者のみ) (副町長より) ＜第2号委員＞平島氏、緒方氏、大谷氏</p> <p>2. 副町長あいさつ (部長)就任お礼、市制移行、総合教育会議など</p> <p>3. 会長あいさつ</p> <p>4. 委員自己紹介・事務局紹介及び子育て支援推進協議会についての説明 交替した委員の自己紹介後、事務局職員(課長以下)が自己紹介 (説明: 事務局) ・推進協議会の位置付け ・会議の開催回数、開催日時 ・委員の任期、報酬・手当など</p> <p>5. 第二次次世代育成支援地域行動計画の進捗状況について (説明: 事務局) ・計画書の基本目標 1 から 6 つの事業(事業 1, 10, 11, 12, 21, 26)をピックアップして、各事業について概要、平成 27 年度の実施内容、指標などについて説明後に各委員から質疑・意見をもらう時間を設けた 【質疑・意見等】 ●事業 1: 乳幼児健康診査の実施</p>			

(委員) 集団健診のある 3 歳児健診の時に、おやつとの与え方や子どもむけのおやつ作り方など保護者が興味を持てるようなことを実施して食についての意識を高めてもらったらよいのではないかと？

(事務局) 3 歳児健診の時には栄養士などが子ども向けのおやつを作って試食してもらったり、作り方を教えていたりしている。

#### ●事業 10: ふれあいこども館の運営

(委員) こども館で、イベントや相談だけでなく母子手帳の交付も実施してはどうか？こども館で実施して面談して交付すると相談できる機会にもなってよいのではないかと？

(事務局) 母子手帳の交付は月 2 回の実施以外にも個別に対応はしているが、平日のみの実施になっている。ただ、交付する前に事前に妊婦さんにアンケートを記載してもらい、それに基づき保健師などが面談の上で交付しているので必ず話を聞く体制になっている。

(委員) こども館の運用が大切だと開館前から言ってきた。

(事務局) 現在は、イベントや遊びの場の提供などのみではなく、「井戸端会議」などの育児相談に関わることも実施している。

(委員) こども館の職員体制について教えてほしい。

(事務局) 子育て支援課長が館長を兼務し、副館長 1 名に加えて保育士が 3 名、その他に臨時職員が非常勤だが何名かいる。

(委員) こども館の中にファミリー・サポート・センターの事務局があり、スタッフが常駐しているというのはいいこと。こども館に遊びに来た保護者に話をし、その場で登録してもらえたりということがある。

(委員) ボランティアスタッフが 200 人を超えているという話を聞いた。職員だけでなく、住民の中から多くの人が関わっているというのはいいこと。開館前にボランティアで地域の人に多くかかわってほしいという話が出ていた。

#### ●事業 12: 親子のふれあいを推進する場の提供

(委員) 平成 31 年度の目標値が 220 回 11,000 人に対して、昨年度の実績は 305 回 9,607 人となっている。これはプログラムの見直しなどを行ったからなのか？

(事務局) この目標を設定したのがちょうどこども館が開館する前後だったため、実施するプログラムなどがはっきり決まっていなかったためズレが生じているのだと思われる。

#### ●事業 21: 家庭訪問・電話相談の実施

(委員) 家庭訪問は妊婦さんにも行っているのか？

(事務局) 妊婦さんも対象にはなるが、すべての人に家庭訪問を行っているわけではなく電話や窓口などで継続して関わっていかないといけない人について家庭訪問を行うなど支援をしている。

(委員) 幼稚園の方にも児童家庭担当の職員が来てくれて、情報交換ができていますのでとてもありがたい。

(委員) 情報交換しているのは町立の幼稚園、保育所だけなのか？

(事務局) 町立に限らず私立保育園なども行っている。

(委員) 最近では子どもの貧困ということが問題になっている。全国では子どもの 6 人に 1 人、福岡では 5 人に 1 人が貧困状態にあると言われている。松木のこども食堂でも食事をしたり、遊んだりして朝から夕方までずっといるような気になる子もいたが、今度はその子が保護者と一緒に来て、保護者がこども食堂の仕事を手伝ってくれるなど、つながりが広がっていくことがある。

(委員) 電話が相談の入口になっているのか？

(事務局) 電話ももちろん相談の入口になるし、健診で気になる人について継続して関わっていったり、窓口で声をかけたり、というのもある。

(委員)最近は虐待で対応が間に合わずに子どもが死亡してしまうということもニュースでよく流れている。

虐待などについて近所の人が通報するような電話番号などは周知されているのか？

(事務局)全国共通ダイヤルでは189という番号があり、電話すると最寄りの児童相談所などにつながる。また、子育て支援課では相談担当への直通電話もある。

(委員)地域のつながりというものが希薄になってきているが、行政の体制は変わってきている。昔は子育て支援課というものがなく、相談できる場もあまりなかった。

(委員)先ほど幼稚園の方には子育て支援課の職員が連携しているという話があったが、小学校ではどうか？校長会で情報交換しているのか？

(委員)校長会で情報交換することももちろんあるし、幼稚園と同じように子育て支援課の職員と情報交換もしている。

(委員)小学校も子育て支援課が関わるのか？教育委員会ではないのか？

(事務局)もちろん学校教育課も関わっているが、子育て支援課と連携して行っている。

(委員)保幼小連携というものを4年ほど前から言ってきて、昨年度あたりから少しずつ連携が進んできている。この取り組みは他市町村よりも進んでいる。

(委員)小学校までは連携できるだろうが、中学生は連携はどうか？

(委員)保幼小の年齢とは少し関わり方が異なってくると思う。中学生くらいになると本人の意志も尊重しなるといけなくなる。

#### ●事業 26: 乳幼児学級・家庭教育学級の実施

(委員)家庭教育学級というのは学校単位で実施しているわけではないのか？

(事務局)南畑小学校だけは単独の学級で、あとは学校区は関係なく学級を実施している。

## 6. 報告

### (1) 地域子育て支援拠点事業について

(説明:事務局)

・計画書P56にこの事業について掲載しているが、平成28年度から3か所で計画をしていた。今年の8月から南畑幼稚園を活用して、こども館の出張ひろばとして拠点事業を実施する予定になっている。当初は今年4月に開園となった那珂川道善コスモス保育園での事業を想定していた。しかし、現在事業を実施しているこども館となかがわ保育園がどちらもいわゆる北部地域にあるため、南部地域でも事業を実施する必要があるということになった。また、南畑地域の活性化ということで、南畑地域にも子育て相談をできる場や子育て環境を整備することが必要になってきている。子育て環境が整うことで南畑地域への定住・移住を促すということもある。南畑幼稚園を活用するというのは、昨年度から総合教育会議の中で就学前教育について議論されてきたことと、拠点事業の対象が就学前なので、年齢がちょうどよいということもある。

・計画書には「新設保育所等において事業の開設が想定される」とあるが、新設保育所に限定しているわけではないため、南畑幼稚園を活用して事業を行っても計画書の変更は生じない。

・8月から週2回、10時から3時の間で実施する予定になっているが、南畑地域ならではの取り組みができると考えている。

#### 【質疑・意見等】

(委員)南畑幼稚園を認定こども園化するという話で出ていると聞いていたが、その話はどうなっているのか？

(事務局)今のところ未定。

(委員)南畑幼稚園は年中が9名、年長が9名のみななので、みなみはた広場が行われると園児も自分たちより小さい子どもとのふれあいができてよい。

(委員)車で来る人が多いと思うが、駐車場は確保されているのか？

(委員)車で送迎する保護者もいるので、子育て支援課の方で検討してもらっている。

(委員)南畑地域の活性化ということで、南畑小学校に他の校区からも通学できるという話が以前の会議で出ていたが、その後どうなっているのか？

(事務局)3名ほど通学していると聞いている。

(委員)保護者の送迎が必要なので、送迎できる人となると限られてくるのかもしれない。

## (2) 学童保育所整備事業・夏休み期間の入所状況について

(説明:事務局)

- ・南畑学童以外の6学童を整備することになっている。  
昨年度に公募型プロポーザルで㈱匠建築研究所が設計を行うことになった。今年の8月には工事業者を決定する予定。
- ・岩戸学童については来年度に実施予定。
- ・夏休み期間の入所状況については、資料1-6のとおりだが岩戸北、安徳北、片縄の3つの学童が入所定員の120%となっているため、小学校の教室を活用する予定。

### 【質疑・意見等】

(委員)教室が増えれば指導員も増やすと思うが指導員の確保はできるのか？

(事務局)1教室増やすごとに2名の指導員を増やさないといけないため、指定管理者の方には指導員の確保をお願いしている。

(委員)国の基準に合わせるための移行期間はあるのか？

(事務局)平成31年度まで

(委員)学童保育所の指導員について、国家資格にしていこうという動きもある。

## (3) 那珂川町人口ビジョン・総合戦略について

(説明:事務局)

- ・今後人口が減少社会になっていく中で、人口を増やしていかなければ税収が減少し自治体の存続が危うくなっていく。それを回避するために首都圏からの定住人口を増加させていかなければならない。総合戦略では人口ビジョンに基づき、基本目標・主な施策、それに対する重要業績評価指標KPIという指標を設定した。
- ・子育て支援の分野でも目標が設定されている。2つ目標があり、1つは待機児童数を平成31年4月に0人にするというもの。今年度は4月にコスモス保育園が開園したことなどもあり、4月から6月までは待機児童がなかったが、7月1日時点では1,2歳児で待機児童が出ている。
- ・2つ目の目標については、「子育てしやすい町」だと思える小学生以下の保護者の割合を設定している。今年度に基準値を設定するためアンケート調査を実施した。児童手当の現況届にアンケートを添付して回答してもらった。アンケートの設問は3つ。「子育てしやすい町だと思うか」という問いに対して5つの選択肢を設け、その理由について記載してもらった。また、今後どのような支援を望むかという問いに対して自由回答で答えてもらった。まだ集計中だが、現在のところは「子育てしやすい町だと思う」の割合が63%程度になっている。

### 【質疑・意見等】

(特になし)

## (4) 認可保育所の入所状況について

(説明:事務局)

- ・7月1日現在で1歳児20人、2歳児16人の待機児童が発生している。

### 【質疑・意見等】

(委員)待機児童を解消するために届出保育所と連携していることはあるか？

(事務局)平成27年度までは待機児童になっている人に対して補助金を出していた。7月に待機児童が出たので、今後検討していかないといけない。

(委員)待機児童を解消するために保育園を増やすという話はあるが、公立保育所の定員を増やして対応する方がよい。私立保育園を増やして行って、今後待機児童問題が解消した時に保育園はもういりません、というわけにはいかない。公立であれば対応できる。

## 7. その他

### (1) 次回以降の開催日程について

(説明:事務局)

- ・第2回会議の時期は未定だが、電話で連絡して日程調整させてもらう

### (2) 議事録の公開について

⇒公開について、異議なく了承

